

進本部小沼士郎企画官より「国際保健外交戦略・日本再興戦略における健康寿命の意義」との報告がなされた。続いて、学術分野における海外の取組として、フランス国立衛生医学研究所 Jean-Marie Robine 氏より「国際健康寿命ネットワーク (REVES) の取組」、ベルギー公衆衛生研究所 Herman Van Oyen 氏より「健康・平均寿命情報システムに関する欧州共同事業 (JA EHLEIS) の取組」、アメリカ保健統計センター Mitchell Loeb 氏より「Washington Group による健康指標開発の取組」が報告され、最後に、浜松医科大学健康社会医学講座尾島俊之教授から、「日本における健康寿命研究」との報告があった。また、15日の学術ワークショップでは、「健康寿命に関する分析方法」、「健康寿命の国際比較性の向上に向けて」、「新しい総合健康指標」、「総合討論とまとめ」という4つのセッションが設けられ、学術的な観点からの報告及び討論が行われた。(石井 太 記)

都市持続再生国際アライアンス第一回国際会議

2014年10月24日(金)～27日(月)の日程で、千葉・柏市の柏の葉地域にて、都市持続再生国際アライアンス (International Alliance for Sustainable Urbanization and Regeneration : IASUR) の第一回国際会議が開催された。このアライアンスは、東京大学都市持続再生研究センター (cSUR) が過去10年間にわたり実施した都市持続再生プロジェクトを通じて構築された国際ネットワークを組織化したものである。国際会議には、中国/台湾、韓国、フィリピン、タイ、インドネシア、マレーシア、ナイジェリアなどから、多数の研究者が参加し、都市持続再生に関わる基調講演・セッションが行われた。筆者(国際関係部長林玲子)は「都市の女性化—人口減少社会の持続可能性」というタイトルで発表を行った。同じセッションでは、米英の工業都市の人口減少と都市再生施策や、工業都市の盛衰の日米韓比較といった発表が行われており、日本における女性の都市への移動にも、都市の産業構造による違いがあるのでは、という指摘があるなど、学際領域ならではの議論が繰り広げられた。(林 玲子 記)

日本人口学会2014年度・第1回東日本地域部会

日本人口学会2014年度第1回東日本地域部会は、2014年10月25日(土)、札幌市立大学サテライトキャンパス(札幌市)において開催された。本研究所の職員が多く参加し、次の研究報告を行った。

- 「非大都市圏出生者の移動パターン—出生県への帰還移動を中心として—」
……………貴志匡博(国立社会保障・人口問題研究所)
- 「人口学的要因からみた地域人口の変化と将来像」
……………山内昌和・小池司朗(国立社会保障・人口問題研究所)
江崎雄司(専修大学)
- 「死亡率の地域格差が将来人口推計の精度に及ぼす影響」
……………菅桂太(国立社会保障・人口問題研究所)
- 「地域メッシュ別にみた自然社会別人口増減—東京大都市圏における1980～2010年の分析—」
……………小池司朗(国立社会保障・人口問題研究所)
- 「大都市圏居住者の転居可能性」……………清水昌人(国立社会保障・人口問題研究所)
- 「近年における各国の世帯数の将来推計」……………鈴木透(国立社会保障・人口問題研究所)